

Ⅰ フラメンコって何？

断言します。フラメンコは知れば知るほど面白い。

なので、あなたが知らないあんなこと、知っていたけれど忘れていたそんなこと、うろ覚えだったこんなこと、そんなあれこれを今からちょっとずつ、解説していきます。それも全部、フラメンコをより楽しむためのネタであります。

フラメンコは楽しい。観てもやっても楽しい。でも知るともっと楽しい。

一番最初を思い出しましょう。あなたは何も知らなかったはずです。フラ

メンコという言葉は聞いたことがあったかも。でも、フラメンコについて知っていたことといえば、ごくざっくりと、スペインの踊り、てなくらいではないでしょうか。今は踊りだけじゃないことも、いろんな曲種があることも、たくさんのアーティストの名前も知っている。で、今の方が断然楽しいですよ。フラメンコの舞台を観ればその良し悪しもわかる。いい舞台を見たときの感動も、なかなか取れなかったパソをうまく踊れたときの喜びも知っている。ね？ 知ることは悪いことではないんです。

フラメンコを知る楽しみ

フラメンコの楽しみ方はいろいろ。歌ったり、踊ったり、ギターを弾きパルマを打つなど、実践する楽しみ。劇場公演やタブラオ、イベントなどで観る楽しみ。CDやラジオなどで聴く楽しみ。そして本を読んだり識者の話を聞いたりでの知る楽しみ。そして知ること、実践する楽しみ、観たり聞いたりする楽しみをより豊かにしてくれる楽しみでもあるのです。

エバ・ジェルバブエナは新しい曲種を初めて踊るに当たって、その曲の起源、歴史をたどり、できる限りの歴史的録音を聴いてから振付に入っていました。また2018年7月に初演した作品『クエント・デ・アスカル（砂糖の物語）』では奄美民謡と共演していますが、制作に当たって実際に奄美を訪れました。

「型がある人が型を破ると型破り、型がない人が破ったら形無し」とは、よく言われることですが、基本を知ること何にとっても大切なことです。また知ることによって引き出しが増え、実際、パフォーマンスに深みが出ることはきっと誰もが知っています。

フラメンコは何も知らなくても楽しめますが、知れば知るほどその楽しみが増えるのです。

というわけで、この読み物です。フラメンコをやっているけど、実はあまりよくわかっていないこととかありませんか？ これってこうだと思うけど、本当にこれでいいのかな、と思うことや、いやこれまでそんなこと考えたこともなかった！ということなど、いろいろみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。堅苦しいお勉強ではなく、より楽しむための手段として、もう一步、フラメンコの奥深い世界に踏み込んでみませんか？

まずその第一歩。フラメンコという言葉について考えてみましょう。



フラメンコな人たち／
 フラメンコのポーズをとるディエゴ・カラスコ、カブージョ、モライト。フラメンコもスペイン語でフラメンコというのです。

セビージャの風景／フラメンコはアンダルシアの青い空の下で生まれた自由の讃歌。セビージャの街はその中心としてフラメンコの歴史を見続けている。



フラメンコって何？

スペインの辞典にはこうあります。
『文化表現、またその演者。ジプシーと関係があり、アンダルシアの民衆の性格を持つ』（Diccionario de Lengua Española de Real Academia Española）

アンダルシアで生まれた文化

フラメンコはスペイン南部アンダルシアで生まれた音楽、舞踊です。その誕生にはヒターノたちの存在が深く関わっています。2010年にユネスコの無形文化遺産に認定されていますが、昔からある形、伝統を守って伝えていくだけではなく、常に新しい試みが行われ、革新されてきました。

型を知り尽くした人たちが、その型を壊し、破り、新しい形を、表現を作り出してきたのです。そしてスペインだけでなく世界中にこの音楽舞踊を実践し、また観て聴いて、楽しむ人たちがいます。この意味で、伝統芸能、民族芸能というよりも、ジャズなどに近い、一つのジャンルと考えるのがいいと思います。また音楽舞踊だけでなく、それに携わる人たち、ひいてはそれを

囲む生活、生き方、考え方なども含めた、いわば人生哲学をもフラメンコということもあります。

フラメンコは自由なアートです。一口にフラメンコと言っても、明るく楽しい感じの曲からシリアスで悲劇的なものまで様々な曲種があり、それぞれの曲種の決まりはありますが、その決まりさえ守っていれば自由に自己表現ができます。一定の形の曲をなぞるのではなく、どんな歌詞をどんな順番で歌うかも、踊りの構成も自由。基本さえ守っていれば自由なのです。演者の個性や創造力で自由に表現できるので

だからいろんなフラメンコがあります。クラシックバレエにも通じるような美しい形と完璧なテクニックでみせ

るものもあれば、野生的な情熱でぐいぐい押していく人もいます。歌詞で観客をうならせる人もいれば、意味のない言葉遊びのような歌詞でリズムと遊ぶ人もいます。その自由を楽しむためにも基本をしっかり押さえておくことは必要なのです。

幅広く、奥深く、自由なアート。それがフラメンコなのです。幅広いゆえに、初心者には覚えなくちゃいけないことが多すぎて、戸惑うこともあるでしょう。奥深いゆえに、やっとできたと思っても、できるようになった頃にはまたより深いものを求めるようになり、挫折感を味わうこともあるかもしれません。でも、そうなる頃にはあなたの人生もフラメンコになっていることでしょう。



フラメンコ学博士課程前期終了証／セビージャ大学に設置されたフラメンコ学博士課程の第1期生ですが、途中で制度が変わり博士号は取得できませんでした。



1987夏のしかぜ／清里で濱田滋郎先生、エンリケ坂井さんと。まだOLでした。

志風恭子／1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デ・ルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。